

ぶんかのみ



ぶんかのみ vol.25

こじま ひなお 剱谷市在住。小学校2年生頃に、デパートのおもちゃ売り場でマジックに魅せられる。本格的にマジックを始めて約35年。デンソー在職中(2011)ボランティア活動社長表彰。2018年9月～剗谷マジッククラブ会長に就任。

剗谷マジッククラブ代表
小島 久尚 氏

マジックで地域のみんなに感動体験を!

剗谷マジッククラブとは?

マジックをコミュニケーションの道具として、地域貢献活動を主体に行っている団体です。1978年(昭和53年)に発足と歴史も長く、今年の3月に結成40周年のイベントを総合文化センター大ホールで開催しました。

私が会長になってから力を入れていることは、【定例会を楽しくする】ことと【後進の育成】です。クラブ員が自主的にマジック講座を開いたり、クラブ員同士が交流してマジックの技術向上やバリエーションが増えるように活動しています。

活動内容は?

毎月2回の定例会と年2回の発表会、年3回の講習会の他に、子供会などの地域行事への参加(H30年度は29件の実績)を随時行っています。地域のみなさんにマジックの魅力を知っていただく機会を増やしています。またマジックの他にも、ペンシルバルーン教室も開催しています。

親子向けのマジック教室では、子どもさんがマジックを見て驚き、笑顔になり、感動して、喜々としてマジックに挑戦しています。

マジックを実際にやってみたいと思う方は、毎月第2・第4土曜日に剗谷市社会教育センターで定例会を行っていますので、気軽に見学に来て下さい。

取材の最後にマジックを披露してもらいました。引いたカードを見事に引き当てられてびっくり! [担当:角岡・神谷]

連絡先:小島久尚 e-mail → hisanaok@katch.ne.jp 【検索】剗谷マジッククラブ
■詳細は、文化工房かりやのブログ[<http://bkkariya.wordpress.com/>]で!

「洲原公園の野鳥」

周囲2km強、40分もあればゆっくりと一周できる適当な散歩コースで、天気の良い日などよく出かけて楽しんできた。この池は、駐車場のすぐ前は1m程度の水深?か、「ヒドリガモ」や「コガモ」が、売店で買ったおやつの分け前をおねだりするかのように、常に群がっている。左へ回りながらお散歩開始。約1/4周、池には葦?など水面から顔を出して居る。水深も浅くなってきたのか?BBQ場もあって木の間から野鳥の鳴き声が良い匂いと共に聞えてくる。「スズメ」等だろう、更に進むと、周囲は竹林にも囲まれて、水深も更に浅くなり渇水時には池底が見えるほど。

「ダイサギ」「チュウサギ」「カワセミ」「ジョウビタキ」中でも「キセキレイ」の黄色い胸毛は春から初夏にかけてひとときわ美しいし「シジュウカラ」が、まだようやく形になったばかりの毛虫や青虫を美味しそうについばむ姿を見つけると、思わずシャッターを切ってしまう。更に進み、愛教大側に行く。ここでは単独行動が好きな種々野鳥が、更に池の中央辺りは深いらしく、「カツブリ」「ウミウ」など潜ってはご馳走をくわえ見せびらかせている。最近、水を干して池の改修を進めている。暫らくの間はこれらの野鳥は帰つてこないので残念でならない。

[今回の担当] 野鳥大好きおじいちゃんの“北岡 保興”です。

「BUN-KA」27号(平成31年4月1日発行)記事に誤りがありました。誤)●井原西鶴の「東海道中膝栗毛」や十返舎一九の「好色一代男」●平成版キジメン1,100円 正)○井原西鶴の「好色一代男」や十返舎一九の「東海道中膝栗毛」○平成版キジメン1,000円 読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

もっとつながる

文化工房かりや

市民目線の文化発信、「みんなで文化、創造中。」

〒448-0858 愛知県剗谷市若松町2-104

TEL:0566-21-7430 / FAX:0566-21-7440

mail:bunkakobo@kariya.hall-info.jp

Twitter : @B_K_kariya

Facebook : bunkakouboukariya

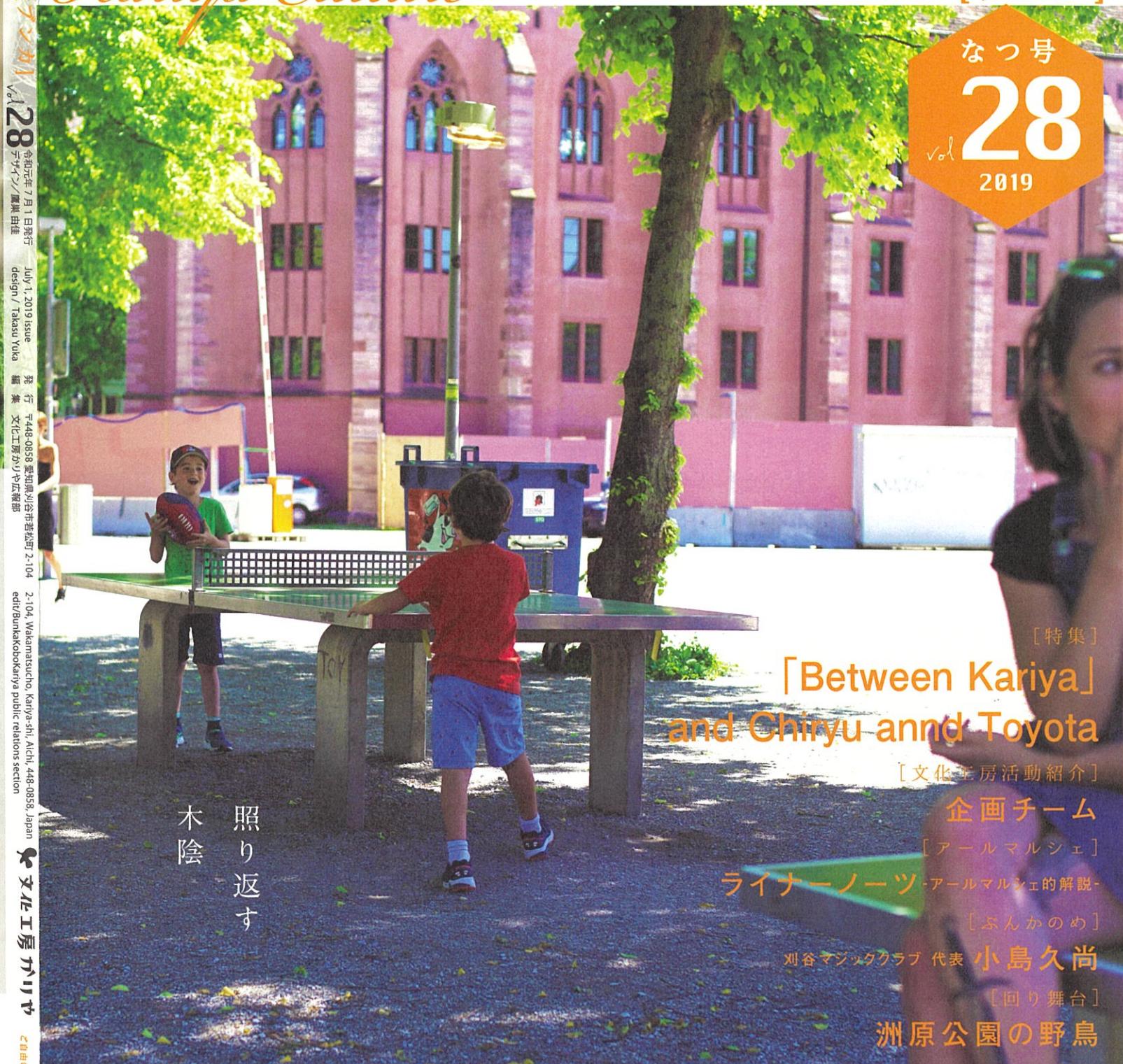
Blog : bkkariya.wordpress.com



FREE

BUN-KA
Kariya Culture

なつ号
vol 28
2019



木陰 照り返す

[特集]
「Between Kariya
and Chiryu and Toyota

[文化工房活動紹介]

企画チーム

[アールマルシェ]

ライナーノーツ -アールマルシェ的解説-

[ぶんかのみ]

刈谷マジッククラブ 代表 小島久尚

[回り舞台]

洲原公園の野鳥

文化工房かりや

Between Kariya & Chiryu & Toyota

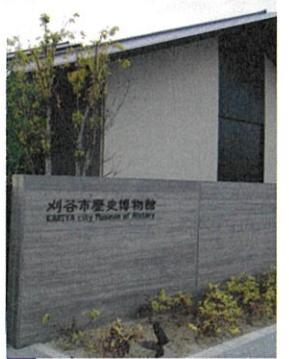
刈谷と近隣の市にまたがる共通の場所、モノ、コトを探る Vol.2



各市の逢妻町の人口

刈谷市	0人*	(令和元年5月1日)
知立市	2369人	(令和元年5月7日)
豊田市	674人	(令和元年5月1日)

刈谷市逢妻町
逢妻川の左岸に位置する町。なんと住んでいる人は0(ゼロ)人。明治22年に碧海郡の熊・高津波の2ヶ村が合併して逢妻村が成立。明治39年に刈谷町の一部となり、昭和35年から現在の刈谷市逢妻町となる。



歴史博物館
平成31年3月24日にオープン。市民が刈谷の歴史や文化に親しみ、学ぶことができる拠点です。
JR「逢妻駅」から徒歩15分



逢妻保育園
周りには畑が広がっています。かなり流れは細く浅いですね。ここからもう少し遡れば源流に辿り着ける場所です。



町内は逢妻女川が流れています。かなり流れは細く浅いですね。ここからもう少し遡れば源流に辿り着ける場所です。

逢妻川にまつわる物語 「愛され歌いつがれる逢妻川」

逢妻駅

昭和16年3月13日開業。刈谷駅から1.9Kmの位置にある。橋上式の駅舎で、相対式ホームである。駅名は刈谷市の西を境川と並行して流れる逢妻川の名に由来する。逢妻川の名の由来は何やら在原業平とかきつばた姫の悲恋話から来ているらしいです。



知立のむかし話:姫塚

http://www.city.chiryu.aichi.jp/kanko_bunka_sports/bunka/2/1451813677629.html

盆踊りの定番、サトウハチロー作詞『刈谷小唄』の♪刈谷娘に尋ねよか~逢妻川とは悩ましや~は、ご存知の方も多いと思いますが『刈谷音頭』、『刈谷よいとこ』でも逢妻という地名が親しみをこめて歌われています。刈谷市の小高原小学校と平成小学校や知立市、豊田市の学校の校歌の歌詞にも含まれている逢妻の名はこれからも長く歌い継がれていくことでしょう。刈谷市美術館でも逢妻川に関する展示があります。和田英作の作品にはズバリ「逢妻風景」という作品もありますが今回の展示は「曙光」という作品です。この作品も逢妻男川に注ぐ支流を描いた作品です。

常設展 地元がいちばん!西三河ゆかりの美術

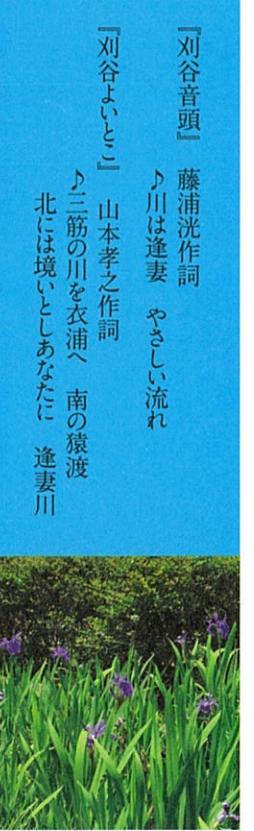
和田英作《曙光》1949年 石田退三コレクション

【会期】2019年6月8日(土曜)から7月14日(日曜)

【会場】特別展示室 【入場料】無料



縁ある知立市の無量寿寺を訪ねました。
姫塚はわかりませんでしたが供養塔がありましたので手を合わせてきました。
(写真上から)無量寿寺の供養塔 在原業平像・かきつばた



刈谷市総合文化センターアトリウム イベント
artMarché アールマルシェ
「ライナーノーツ -アールマルシェ的解説-」vol.3

ブロードウェイ・ミュージカル「スwing!」に魅せられて
グループ名にあるリンディ・ホップはスwingダンスの中で最もポピュラーなダンスの一つで、1920年代に流行したチャ尔斯・ジョンソンなどの速い動きのダンスから発展しました。
1940年代のスwingジャズのリズムに合わせてペアが互いに弾むように、近づいたり離れたりするダイナミックな動きをするのが特徴です。また、「横浜ジルバを思い出す」ともいわれます。レトロな衣装を着て楽しんで踊ります。



Midland Lindy Crew
(ミッドランド・リンディ・クルー)



TRIO de neiro with Shin
(トリオ・デ・ネイロ ウィズ シン)

楽しんでもらう音色

ヴァイオリン、サックス、ピアノのトリオで、2014年に結成しました。いつも、この場にいらっしゃるお客様に思い切り楽しんでもらうことを第一に考えてプログラムを作っています。そのためレパートリーは幅広く、ジャンルを問わず挑戦続けています。今回は特に、打楽器奏者の中村新さんに加わっていただき、よりスペシャルになったneiroをお楽しみください。

[担当:野村敏]

公演スケジュール

N°38 2019年9月21日(土)開催 13:00~14:00

出演 Midland Lindy Crew(スwingダンス) / TRIO de neiro with Shin(ヴァイオリン、サックス、ピアノのトリオ)

今年の企画は、情報誌“BUN-KA”が主役!

文化工房かりやの活動のメインは、年1回開催する企画公演またはイベントです。令和元年の企画は「真夏のBUN-KA祭」。2012年にかわら版として創刊した情報紙「BUN-KA」の中の「ぶんかのめ」というコーナーは、刈谷市出身、在住の方で文化・芸術活動をしている方にスポットを当てて紹介しています。今回「ぶんかのめ」で紹介した方々と、刈谷市総合文化センターのギャラリーと1階エントランスアトリウムで7月に芸術発信のイベント「真夏のBUN-KA祭」を開催します。みんなでイベントを作り上げるのは大きな労力がありますが、終えた時の達成感は次なる企画へのエネルギーとなります。一つずつステップアップしていく文化



工房かりやの今後の活動をお楽しみに!
※「真夏のBUN-KA祭」7月27日(土)28日(日)
総合文化センターのギャラリーにて開催。
27日(土)1階エントランスアトリウムにて
パフォーマンス開催。
※詳細は、総合文化センターのHPをご覧ください。

「活動紹介」vol.3 担当:井野